科目区分	専門教育科目	授業科目名	保育実習Ⅱ			科目コード	24Y504	担当者	織田　芳人、福井　昭史、本村　弥寿子、中村　浩美、荒木　正平、船勢　肇、野田　章子、山中　慶子、三原　ミヨ子、小槻　智彩			担当形態	複数
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	2年次	開講学期	通年	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士選択必修		
授業形態	実習	履修条件	入学時から１年次後期末までの通算GPAが1.20未満の者は、原則として、本科目を履修することができない。								教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目			実務の経験内容及び科目との関連									科目に含めることが必要な事項	

授業の主題	保育実習Ⅰをふまえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にし、実践することを通して保育の理解を深める。保育所における子どもの保育および子育て支援について総合的に学び、保育士としての自己の課題を明確にする。	課題等への対応（フィードバックの方法等）	各実習担当教員が提出された課題・実習先からの評価・実習記録等を基に事前・事後指導を行う
授業の方法	学外実習（保育所 2年次9月に10日間）	アクティブ・ラーニングの実施方法	各実習施設の実習指導責任者のもと、保育等の実際を体験する。

	授業計画	事前・事後学修
	実習期間：2年次　9月　10日間 1)観察実習/参加実習 a.担当保育者の指導のもと、乳幼児の1日の生活やあそびの様子から一人一人の子どもの発達過程を理解する。 b.保育者と子どもとの関わりの様子を観察し実践につなげる。 c.積極的に保育に参加しながら適時保育の補助をおこなう。 d..実習園の保育方針や特色を理解し、1日の保育の流れ及び施設・設備の状況を把握したうえで、見通しをもって行動する。 2) 部分実習／責任実習 担当保育者の指導のもとに、実習生が指導計画を立て、準備→展開→評価に至る保育活動を主体的に担当し、全般的な技術の習熟をはかるとともに保育者としての意識を高める。	・実習園事前訪問報告書の作成 ・実習課題の記入 ・園長講演会報告書の記入 ・実習報告書の記入
		事前・事後学修時間　90分

教科書［書名／著者名／出版社］	教育・保育実習の手引き、これからの時代の保育者養成・実習ガイド	受講生へのメッセージ	保育実習は、あなたが目指している職業を実際に確認する機会でもあります。保育実習指導Ⅱで学んだ内容をふまえ、実りのある実習になるようにがんばってください。
参考書［書名／著者名／出版社］	なし		

評価基準																			
		学修成果の大分類	学修成果の中分類［10の力］	学修成果の配点比率（%）	評価方法の配点比率（%）						学修成果の小分類			尺度				
					定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法／評価指標	レベル５（Ｓ：100～90%）	レベル４（Ａ：89～80%）	レベル３（Ｂ：79～70%）	レベル２（Ｃ：69～60%）	レベル１（Ｆ：59%以下）
観点	尽心	態度・志向	①学習意欲	10						10	欠勤・遅刻・早退せずに実習に取り組む。指導計画は余裕をもって担当保育者に提出し指導を受ける。	保育者として積極的に学ぶ態度。	実習施設による評価	欠勤・遅刻・早退が全くない。指導計画は余裕をもって提出し、充分に指導を受けることができた。	欠勤・遅刻・早退が全くない。指導計画は期限内に提出した。	欠勤・遅刻・早退が1日程度あった。指導計画は期限内に提出した。	欠勤・遅刻・早退が２日以上あった。指導計画は期限内に提出した。	欠勤・遅刻・早退が３日以上あった。もしくは指導計画を期限内に提出しなかった。
			②規律性	10						10	職業上の倫理に基づいた、社会人としてふさわしい言動で職員や子どもらと接する。	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動。	実習施設による評価	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども等と接することができた。	おおよそ職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども等と接することができた。	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども等と接することが時々できなかった。	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども等と接することがあまりできなかった。	職業上の倫理に基づいた社会人としてふさわしい言動で職員や子ども等と接することがほとんどできなかった。
	創造	知識・技能	③知識	10						10	子どもの発達過程や個別の姿をに応じた保育内容や環境を理解した上で、ふさわしい保育を計画し実践する。	子ども理解に応じた保育の展開。	実習施設による評価	子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し、指導計画を作成し実践することができた。	子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し、助言を受けながら指導計画を作成、実践することができた。	子どもの発達過程に応じた保育内容をある程度理解し、助言を受けながら指導計画を作成、実践した。	子どもの発達過程に対する理解があまりできておらず、指導計画の作成、実践にかなりの助言を要した。	子どもの発達過程に対する理解ができておらず、発達に応じた指導計画の作成や実践ができなかった。
			④技能	10						10	子ども理解やねらいに基づいた援助を行いながら、子どもの状態によって臨機応変に行動することができる。	子ども理解や保育計画に基づいた関わりと柔軟な思考力、判断力。	実習施設による評価	子ども理解や保育計画を意識して子どもと関わりながら、子どもの状態によって臨機応変に行動できた。	子ども理解や保育計画を意識した関わりをおこないながら、子どもの状態にあわせて行動しようとした。	子ども理解や保育計画を意識しながら関わろうとしたが子どもの状態に合わせて行動することは難しかった。	子ども理解や保育計画を意識することがあまりできず、子どもの状態に合わせることが難しかった。	子ども理解や保育計画を意識しておらず、子どもの状態にも合わせようとしなかった。
		思考・判断	⑤情報活用能力																
			⑥課題解決力																
		表現	⑦言語活用能力	40			40				子どもの姿や保育をていねいに観察し、エピソードを交えながら子ども理解につながる記録が書ける。	文章表現力。	実習報告書、日誌	誤字・脱字無く、子どもの姿や保育内容の記録をエピソードを交えながらていねいに書くことができた。	誤字・脱字が数か所あるが、子どもの姿や保育内容のエピソードを交えながら記録を書くことができた。	誤字・脱字は無いが、子どもの姿や保育内容の記録に関して詳細さに欠ける。	誤字・脱字が数か所あり、子どもや保育内容の記録に関して詳細さに欠ける。	誤字・脱字が多い。もしくは子どもの姿や保育内容に対する観察が不十分である。
			⑧コミュニケーション力	10						10	自ら学ぶ姿勢のなかで、保育者らの助言・指導を踏まえて積極的に保育参加することができる。	職員同士の連携のなかで、積極的に保育に関わろうとする態度。	実習施設による評価	保育者らの助言・指導を参考にしながら保育に積極的に関与し行動することができた。	保育者らの助言・指導を受けながら、保育に参加した。	おおむね保育者らの助言・指導を受けながら、保育に参加しようとした。	保育者らの助言・指導を受けたが、保育参加に消極的であった。	保育者らが助言・指導したが、保育にほとんど参加しようとしなかった。
	実践	行動・応用	⑨主体性	10						10	部分実習や責任実習において、教材準備、計画、振り返りなど積極的に取り組み実践する。	自ら計画し、学ぼうとする姿勢。	実習施設による評価	自らの課題を明確にして保育を計画し、教材準備、指導案の作成をおこない、振り返りも確実にできた。	計画性をもって、教材準備、指導案の作成をおこない、振り返りもできた。	おおむね計画性をもって、教材準備、指導案の作成をおこない、振り返りもできた。	計画性があまり無く、教材準備や指導案の作成、振り返りにおいて助言・指導をかなり要した。	計画性が無く、教材準備や指導案の作成は準備不足であり、振り返りにおいても多くの助言・指導を要した。
			⑩協働性																
合計				100			40			60									